

令和4年度研究推進計画

廿日市市立廿日市中学校

研究主題

思考力と表現力を高めるための授業づくり
～ユニバーサルデザインの考え方を生かした指導の工夫～

主題設定の理由

変化の激しい現代社会においては学校で学んだ知識・技能を定型的に活用して問題解決をすることが難しい。そこで、手に入れた知識や情報を「深く考えて活用する力」や、考えを共有し、高めていく「他者と協働できる力」が求められている。そのような力を育成するために教育現場では、知識の習得を重視した「教師基点の学び」「受動的な学び」「浅い学び」から、「学習者基点の学び」「能動的な学び」「深い学び」への転換が必要と考える。また、平成22年に公表されたPISA調査の結果でも「必要な情報を見付け出し取り出すことは得意だが、それらの関係性を理解して解釈したり、自らの知識や経験と結び付けたりすることが苦手である。」と指摘された。しかし10年以上経過した現在でも生徒の思考力・表現力は課題として残されている。「考えたことを言語などで表現する力」を育てることがあらためて求められている。

令和3年度に校内で実施したアンケートより、生徒の9割以上が課題に対して「なぜだろう」と意欲関心を持ち取り組むことができているということが分かった。また問題集などに取り組む際は間違えてもいいから自分の考えを書く生徒も9割いることが分かった。一方、「自分から進んで勉強している」と答えた生徒は7割であった。このことから、課題に対して前向きに取り組むことができるが、「進んで学ぶ」意欲には課題があることが分かる。また、思考に関する項目に肯定的な答えをした生徒は9割以上であったが、表現に関する項目の「相手に分かりやすく必要に応じて例などを挙げている」と肯定的に答えた生徒は8割であった。

そこで、今日的課題である「主体的な学び」をゴールに見据えつつ、生徒には「進んで学ぶ」ことを意識させる。今年度もユニバーサルデザインの考え方を生かした指導の工夫を行い、本中学校区が身に付けさせたい資質・能力「思考力・表現力」「主体性」「自己有用感」のうち、特に「思考力・表現力」を育てることに重点をおいて研究をより推進することとした。生徒に「主体的な学び」を実現させ、「知識や技能」を定着させるとともに「思考力・表現力」を高めさせたい。特に、表現力の育成を目指した授業づくりを重点的に行い、「互いの考えを伝え合い、自らの考えや集団の考えを発展させる場面の設定」の工夫に取り組む。こうした生徒を育てるために、教師一人一人が、指導内容に関する専門性を高めるとともに、授業づくりのポイントとして「焦点化」「視覚化」「共有化」を図ることを意識し、また教師相互の授業参観などを通して、指導方法の工夫を積極的にを行い、ICT機器を活用した授業力向上に努める必要がある。

研究仮説

教師が授業のユニバーサルデザイン化（主に『焦点化・視覚化・共有化』）に取り組むことで、生徒一人一人が学習に参加し、思考した内容を言葉として表現することによって、思考を整理することができるように表現力を高めることができる。

◇育成を目指す資質・能力について、発達段階に応じた目指す生徒の具体的な姿◇

	思考力・表現力	主体性	自己有用感
1学年	情報を整理し、自分の考えや意見を表現することができる。	課題に対して、自分の考えをもち、取り組もうとしている。	友達の考えや表現を尊重し、受け入れていこうとする態度を養うことで、ともに学びあい自分に自信をもつことができる。
2学年	論理的に考え、自分の考えや意見を分かりやすくまとめ、表現することができる。	課題に対して、自分の考えを持ち、自ら進んで取り組もうとしている。	友達の考えや表現を尊重し、受け入れていこうとする態度を大切にともに学びあうことができる。
3学年	課題解決のために適切な方法を導き、適切な方法で相手に伝えるように表現することができる。	課題に対して、自分の考えを持ち、よりよい方法を選択して、自ら進んで取り組もうとしている。	友達の考えや表現を尊重し、受け入れていこうとする態度を大切に、ともに自律的・自主的に生活するために学びあうことができる。

◇本年度の研究内容

項目	取組内容
学習環境	① 廿中三カ条(着ベル・環境・立腰/挨拶)の徹底 ② 保護者との連携 ・学校・学年・学級通信などによる情報発信を行う。 ③ 自律した学習スタイルの定着 ・生活ノートの活用により、先を見通して学びを進める方法を身に付ける。 ・試験週間に計画的に学習させるために、学習計画を作成させるなど、自律して学習ができるような指導を実施する。 ④ ICT 機器を用いた授業・家庭学習の研究 ⑤ 朝読書
指導的評価活動	① 否定の中にある肯定を見付ける発見活動 ② 「三つ（個人、関係者、全体）の拍手」による関係性・重層性への評価 ③ 結果としての評価ではなく、進行形への評価
授業づくり	① 校内研修の工夫 ・学期に1回以上、同じ教科の授業を参観し、表現力を高める手立てに関して検討する。 ・ユニバーサルデザインを生かした授業づくり「焦点化」「視覚化」「共有化」に視点を置くとともに、表現力を高めるための手立てが書かれた指導案を作成する。それを全体で参観し研究協議を行うことで、授業力の向上を図る。 ② 授業モデルに基づく授業の展開 ③ 授業改善（5つの共通実践）を意識し職務を実践する。

◇検証方法

検証内容	方法	時期・回数等
指導的評価活動	・学期ごとの振り返り（学年ごと） ・アセス ・学力調査時の生活アンケート	年3回 年3回 4月
思考力・表現力	・全国学力・学習状況調査 ・校内アンケート	4月 年3回
授業改善	・教員アンケート ・校内アンケート	年3回 年3回

廿日市中学校授業モデル

授業規律

- 学習規律の徹底(廿中三か条徹底)
- 話す姿勢・聞く姿勢
- 学習係による行動目標の発表

分かりやすく表現する

結論先行型

根拠+理由付け = 結論

「私は〇〇だと思います。〇〇という事実があり、△なので、〇〇と考えます。」

大きい情報から説明

全体から部分へ 概要から詳細へ

つながり発言をする

- 「私も〇〇さんの意見と同じで…」
- 「△さんの意見に似ていて…」
- 「□さんの意見に付け加えます…」

YES BUT法(反論の型)

「確かに〇〇さんの意見は◎です。でも私の意見は△です。理由は…」
「〇〇さんの意見は△と言う点で大変理解できます。しかし□とも考えられると思います。」

振り返りの型

「これまでは〇〇だったけれど、今日授業で△の意見を聞いて□ということが分かりました。」
「△について〇だと考えていたが、▽の意見によって、□もあるのだと考えようになりました。」

授業の展開

- 「～できる」型の語尾でめあてを示す
- 本日の学習の流れの提示
- 思考を促す課題設定をする

思考のスイッチ★を押す

- ★友達と比べて／自分の体験と比べて／前回学んだことと比べて
- ★多くの視点で／他の見方は？
- ★具体例を挙げてみよう。
- ★まとめるとどうなるの？
- ★特に重要なのは？
- 思考ツールの活用。

個に応じた指導

- 学習の手引き・ヒントカードの活用
- ワークシートの工夫。
- ★発展コースやじっくりコースなど 選べるものにするなど。

小グループの活用

- ペア・3～6人の小グループで学習・活動をさせる。
- ホワイトボードなど教具の工夫。
- 役割分担やジグソー型の導入など活用方法の工夫。

思考を深める切り返し

- 「その根拠は事実かな？」
- 「その理由は誰もが納得いくものかな？」
- 「根拠から結論まで筋が通っているかな？」

- 必ずしも授業最後に提示しなくてよい。
- 全体で本時に学習したことをまとめる。(板書が望ましい)
- 自己評価、教員による評価。

見通し

自分で考える

交流する

深める

まとめる

